

「**霊気満山 高尾山**～人々の祈りが**紡ぐ**桑都物語～」が 日本遺産認定に至るまでの取組 (八王子市)

1. 背景

八王子市が申請した高尾山をテーマにしたストーリー「**霊気満山 高尾山**～人々の祈りが**紡ぐ**桑都物語～」が、令和2年6月、都内で初めて日本遺産に認定された。

日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、今回選ばれた「**霊気満山 高尾山**」は、養蚕や織物が盛んであったことから桑都と称された八王子の歴史や文化を、信仰の山として地域の人々のよりどころであった高尾山とのつながりとともに今に伝えるストーリーとなっており、物語を語るうえで欠かせない29件の文化財で構成されている。

八王子市が日本遺産への申請を決めたきっかけは、平成29年に市制100周年を迎えたことだ。歴史文化を活かしたまちづくりをすすめるとともに、八王子市が掲げる「地域活性化」「関係人口増加」「郷土愛の醸成」という3つの将来ビジョンを達成するための手段の一つとして、日本遺産認定が100周年のレガシー（遺産）として組み込まれた。

本事例をベストプラクティスとして取り上げる理由は、日本遺産認定によって短期的な観光客数の増加を図るのではなく、ビジョン達成の手段として日本遺産を活用するという八王子市の考え方、また認定に至るまでの長期的な視点での取組の過程が、他機関における今後の事業運営等において参考になると考えるからである。

2. 市制100周年のレガシーとしての日本遺産申請

市制100周年の翌年である平成30年4月に、八王子市役所内に日本遺産申請に向けた担当部署が立ち上がり、学芸員3名を含む市の職員6名体制でスタートした。

日本遺産は、遺産を保護することを主目的とするユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の世界遺産と異なり、遺産を活用することを主目的として文化庁が認定する制度である。国宝など知名度の高い観光資源が1つでもあれば認められるといったものではなく、①歴史的経緯や伝承・風習等を踏まえたストーリーであること②地域に根ざして継承・保存がなされている文化財がストーリーの構成文化財として必要となる。そのため、何をテーマにするか、どのようなストーリーとするか、ストーリーを構成する文化財を何にするかという流れで、申請に向けて準備を進めていった。

3. 日本遺産認定に至るまでの取組の過程

まずテーマを決めるにあたって、八王子らしさや他と違う独自性を出すことを意識し、現在の八王子市街地の元となった「八王子宿」や江戸幕府の職制のひとつであり、八王子

及び周辺地域の治安維持などを行った「千人同心」、登りやすい山として全国的にも有名な「高尾山」など様々な案を候補とした。そして、申請に向けて市が立ち上げた有識者等会議「八王子市歴史遺産活用検討会」において、八王子観光コンベンション協会、八王子商工会議所、民間事業者、大学教授などの幅広い分野の専門家とともに検討を行い、高尾山をテーマにすることとなった。

次に、高尾山をテーマにどういったストーリー構成とするか、検討を進めていった。人々の琴線に触れ、実際に行ってみたくなるか、また、それだけではなく、地元の市民が共感できるストーリーとすることを意識し、都内及び埼玉県や神奈川県の人々を対象にインターネット調査を行ったほか、市の職員約2,000人を対象にしたアンケート調査を行った。職員アンケートでは、高尾山へ登った回数や高尾山の何に魅力を感じるかなどを聞く中で、一度も登ったことがないという人は少なく、二度以上高尾山に登った経験のある人が多くいること、歴史文化を活用した地域振興に魅力を感じる人々の割合が高いことが分かった。アンケート結果などをもとに、活用検討会におけるミーティングを2か月に1回程度実施するなど検討を繰り返し、高尾山とのつながりとともに人々によって紡がれてきた歴史や文化により八王子の魅力を語るストーリーを作り上げた。

構成文化財の選定にあたっては、文化財を守ってきた人々の「思い」を申請に反映することを意識した。関係者約300人と会い、話を聞いたほか、申請までにストーリーの軸となる高尾山に50回以上登るなど足を使い、時間をかけて未指定のものを含む約60件の有形・無形の文化財の中からストーリーに関連の深い29件を選定した。

4. 認定への反響と今後の展開について

日本遺産を実施する文化庁との事前相談を経て、その都度内容を検討したほか、他の類似遺産との違いを明確化した上で申請を行った結果、令和2年6月19日に、日本遺産への認定が決まった。市のHP上で認定を報告したところ、多くの喜びの声が寄せられたほか、Twitter上では、数か月経った現在も市民の祝福の書き込みが続いている。また、市の広報紙「広報はちおうじ」8月15日号において、特集で日本遺産認定を取り上げたところ、日本遺産認定で今までにない高尾山の魅力を知った、高尾山を神秘的に感じたとの声が寄せられるなど、コロナ禍が続く中で久しぶりの明るい話題に祝福の声が相次いだ。

7月には、市内の事業者や団体のほか、八王子市や八王子観光コンベンション協会などが連携して日本遺産を活かしたまちづくりに取り組む「日本遺産『桑都物語』推進協議会」を立ち上げ、活用に向けて様々なPRなどの取組を始めている。

市が当初より目標としていた3つの将来ビジョン「地域活性化」「関係人口増加」「郷土愛の醸成」の達成については、日本遺産認定によってそれぞれの動きが加速している。

1つめの「地域活性化」では、コロナ禍で認定後しばらくは大規模なイベントを実施できていなかったが、10月に入ってから日本遺産認定に関連したイベントが行われるよう

になり、11月には毎年恒例の八王子いちょう祭りにおいて日本遺産認定に関連したスタンブラーを実施するなど、地域活性化に向けた活動が進められている。

2つめの「関係人口増加」は、高尾山や構成文化財への興味・関心をきっかけに八王子市にかかわる人々を増やすことを目標としており、10月には、大学生などを対象に、日本遺産ストーリーを分かりやすく説明するための「教育デジタルコンテンツ作品」の募集を開始している。これは、大学進学などで八王子に来た学生が八王子に魅力を感じ、卒業しても八王子に関わってくれることを目的の一つにしており、市の担当者曰く、将来的な関係人口増加に向けて、日本遺産認定が一つの良いきっかけとなっているとのことだ。

3つめの「郷土愛の醸成」は、将来を担う子供をはじめとする地域住民に地元八王子の良さを伝え、地元へ愛着をもってもらうことを目的としている。認定後、市内の全市立小中学校で日本遺産認定を祝う横断幕を掲示したほか、高尾山薬王院で提供される精進料理をアレンジした「高尾山御膳」、八王子城の石垣をイメージした石垣揚げを献立に入れた「八王子城御膳」、桑の葉パウダーを混ぜたソースを使った「桑都御膳」など日本遺産ストーリーにちなんだ給食を提供するなど、地元により愛着を持ってもらうための機会を増やしている。給食を食べた子供たちからは、歴史をしっかりと守っていききたいという声が出るなど、これまでになかった反応が得られている。また、前述の「教育デジタルコンテンツ作品」についても、優秀作品を市立小中学校および義務教育学校において副教材として活用することを予定しており、こちらも郷土愛の醸成に向けて役立てていく予定だ。

認定をきっかけに、構成文化財の一つである高尾山薬王院の関係者は、単なる観光地としての高尾山ではなく、高尾山の霊山としての歴史を学んでもらうきっかけになったと話したほか、同じく構成文化財の一つであり、70万人が訪れる八王子まつりの実行委員会関係者は、自分たちのまつりの名前が全国にとどろくことを誇りに思うと語っている。

市の担当者は、「自分のところには有名な観光地がない、魅力的なものはないと考えている方々もいるかもしれないが、見えていないだけで必ずどこの地域にも魅力はある。大事なものは、他と比べて、これもない、あれもない、とないものを見つけるのではなく、こんな魅力がある、という、あるものを見つける“あるもの探し”である。」とのことだ。一過性の消費を目的とするのではなく、文化を理解してもらうこと、そして絶えず探索しつづけることが重要であり、八王子市では、日本遺産認定をうまく活用し、将来を担う子供を巻き込みながら、地域活性化などにつなげていきたいとのことだ。

<おわりに>

平成27年より開始した文化庁の日本遺産は、令和2年6月認定で104件となり、「令和2年度までに100件程度」としていた目標件数に到達しました。今回で認定は最後となるため、都内で唯一の日本遺産認定となります。

八王子市日本遺産推進担当の平塚裕之課長は、「日本遺産を通じて、多くの市民が地域の

歴史文化を語り続けることが未来のまちづくりにつながる」と語っています。

取材前には、日本遺産認定は観光客誘致が目的なのであろうと考えていましたが、実はそれが目的ではないこと、地元の人々に地元八王子を知ってもらうこと、また愛してもらうこと、そのきっかけの一つが日本遺産認定であるという考えをお伺いすることができました。

観光は、一朝一夕で成功するものではありません。中長期的な視点で観光客の誘致を図ること、また、観光客数という目先の数字にとらわれすぎることなく、観光地としての土壌を築いていくこと、地域住民の理解や協力を得て初めて観光地として成り立つのだということを実感することができました。

全国的にも高い知名度を誇る高尾山について、公益社団法人八王子観光コンベンション協会の齋藤和仁事務局長は、「高尾山といえば知名度が高いからわざわざPRしなくても人は来ると思われるかもしれないが、決してそんなことはない。日本遺産認定をきっかけに、これからも高尾山の魅力を発信し続けていきたい」と語っています。

また、高尾山のおすすめ時間帯は早朝とのことで、実際に早朝の様子を撮った写真が載った「広報はちおうじ」を見せていただき、その荘厳な景色に圧倒されました。ぜひ早朝の高尾山を訪れるとともに構成文化財を見て回り、八王子の歴史に思いをはせてみてはいかがでしょうか。



構成文化財の一つである国史跡・八王子城跡



早朝の高尾山

(「広報はちおうじ」より)

【取材協力先】 八王子市都市戦略部併生涯学習スポーツ部 日本遺産推進担当課長
平塚 裕之 様
公益社団法人八王子観光コンベンション協会 事務局長
齋藤 和仁 様

【取材日時】 令和2年9月29日、令和2年10月12日

【関連リンク】 <https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kankobunka/003/takaosann/p026876.html>

(地域振興部事業課 仲谷)